

大学番号：私106

[平成29年度設置]

計画の区分：大学院の設置

認可

桐朋学園大学大学院 音楽研究科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人桐朋学園  
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教学事務部

職名・氏名 マツ 浦 イサオ  
松 浦 功

電話番号 03-3307-4101

（夜間） 03-3307-4105

F A X 03-3307-4354

e-mail i-matsuura@tohomusic.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。  
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 音楽研究科

＜音楽専攻 修士課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	40
7. その他全般的事項	41

＜音楽専攻 博士後期課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	45
2. 授業科目の概要	49
3. 施設・設備の整備状況、経費	54
4. 既設大学等の状況	55
5. 教員組織の状況	56
6. 附帯事項等に対する履行状況等	65
7. その他全般的事項	66

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人桐朋学園

## (2) 大学名

桐朋学園大学

## (3) 大学の位置

〒182-0021  
東京都調布市調布ヶ丘一丁目10番地1  
〒182-0003  
東京都調布市若葉町二丁目19番地47  
(〒182-8510)  
( 東京都調布市若葉町一丁目41番地1 )

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コヤナギ サトシ) 小柳 敏志 (平成22年4月)	(カワハラ イサト) 河原 勇人 (平成30年4月)	任期満了による交替 平成30年4月1日(30)
学長	(ウメヅ トキヒコ) 梅津 時比古 (平成25年4月)		
学部長	(ムラカミ ゲンイチロウ) 村上 弦一郎 (平成28年4月)	(コモリヤ イズミ) 小森谷 泉 (平成30年4月)	任期満了による交替 平成30年4月1日(30)
研究科長	(オオシマ イクオ) 大島 幾雄 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
音楽研究科 音楽専攻(修士課程) 修士(音楽)	音楽関係	年 2	人 30	年次 人	人 60	基礎となる学部等  音楽学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	30人 — 人		30人 — 人		30人 — 人				1.65倍	1.65倍	
志願者数	75 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	58 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	61 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]					
受験者数	74 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	57 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	58 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]					
合格者数	58 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	43 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	48 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]					
B 入学者数	58 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	43 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]	48 ( - ) [ - ]	( - ) ( - ) [ - ]					
入学定員超過率 B/A	1.93		1.43		1.6						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	58 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	43 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	48 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	
2年次	/		56 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	43 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	
3年次	/		/		4 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	
計	58 [ - ] ( - )		99 [ - ] ( - )		95 [ - ] ( - )		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した**在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	58人	2人	平成29年度	2人	0人	就職(2人)
平成30年度	99人	1人	平成29年度	1人	0人	就職(1人)
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	95人	0人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		3人		3人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{58} = \boxed{3.44} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{99} = \boxed{1.01} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{95} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<音楽研究科 音楽専攻（修士課程）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	領域実技①(a)	1前	2			14	9					88
	領域実技①(b)	1後	2			14	9					88
	領域実技②(a)	2前	2			14	9					88
	領域実技②(b)	2後	2			14	9					88
	修了研究(a)	2前	1			18	11					
	修了研究(b)	2後	1			18	11					
	声楽特殊研究A①(a)	1前		1		2	1				2	
	声楽特殊研究A①(b)	1後		1		2	1				2	
	声楽特殊研究A②(a)	2前		1		2	1				2	
	声楽特殊研究A②(b)	2後		1		2	1				2	
	声楽特殊研究B①(a)	1前		1		3	1				2	
専門科目	声楽特殊研究B①(b)	1後		1		3	1				2	
	声楽特殊研究B②(a)	2前		1		3	1				2	
専門科目	声楽特殊研究B②(b)	2後		1		3	1				2	
	歌曲演習Ⅰ(a)	1・2前	2			2						
	歌曲演習Ⅰ(b)	1・2後	2			2						
	歌曲演習Ⅱ	1・2前	2								1	
	歌曲演習Ⅲ	1・2後	2								1	
	台本研究	1・2後	2								1	
	器楽特殊研究A①(a)	1前		1		9	7				62	
	器楽特殊研究A①(b)	1後		1		9	7				62	
	器楽特殊研究A②(a)	2前		1		9	7				62	
	器楽特殊研究A②(b)	2後		1		9	7				62	
	器楽特殊研究B①(a)	1前		1		9	6				52	
	器楽特殊研究B①(b)	1後		1		9	6				52	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	領域実技①(a)	1前	2			19	7	1				96
	領域実技①(b)	1後	2			19	7	1				96
	領域実技②(a)	2前	2			19	7	1				96
	領域実技②(b)	2後	2			19	7	1				96
	修了研究(a)	2前	1			26	8	1				
	修了研究(b)	2後	1			26	8	1				
	声楽特殊研究A①(a)	1前		1		2	2					3
	声楽特殊研究A①(b)	1後		1		2	2					3
	声楽特殊研究A②(a)	2前		1		2	2					3
	声楽特殊研究A②(b)	2後		1		2	2					3
	声楽特殊研究B①(a)	1前		1		3	2					3
専門科目	声楽特殊研究B①(b)	1後		1		3	2					3
	声楽特殊研究B②(a)	2前		1		3	2					3
専門科目	声楽特殊研究B②(b)	2後		1		3	2					3
	歌曲演習Ⅰ(a)	1・2前	2			2						
	歌曲演習Ⅰ(b)	1・2後	2			2						
	歌曲演習Ⅱ	1・2前	2									1
	歌曲演習Ⅲ	1・2後	2									1
	台本研究	1・2後	2									1
	器楽特殊研究A①(a)	1前		1		14	4	1				70
	器楽特殊研究A①(b)	1後		1		14	4	1				70
	器楽特殊研究A②(a)	2前		1		14	4	1				70
	器楽特殊研究A②(b)	2後		1		14	4	1				70
	器楽特殊研究B①(a)	1前		1		14	3					62
	器楽特殊研究B①(b)	1後		1		14	3					62

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	器楽特殊研究B②(a)	2前		1		9	6					52
	器楽特殊研究B②(b)	2後		1		9	6					52
	器楽特殊研究C①(a)	1前		1		5	3					21
	器楽特殊研究C①(b)	1後		1		5	3					21
	器楽特殊研究C②(a)	2前		1		5	3					21
	器楽特殊研究C②(b)	2後		1		5	3					21
	歌曲伴奏研究①(a)	1前		1							1	
	歌曲伴奏研究①(b)	1後		1							1	
	歌曲伴奏研究②(a)	2前		1							1	
	歌曲伴奏研究②(b)	2後		1							1	
小計(35科目)	-											
関連科目	総合演習A(a)	1・2前		2		1						
	総合演習A(b)	1・2後		2		1						
	総合演習B(a)	1・2前		2		1						
	総合演習B(b)	1・2後		2		1						
	総合演習C(a)	1・2前		2		1						
	総合演習C(b)	1・2後		2		1						
	総合演習D(a)	1・2前		2		1						
	総合演習D(b)	1・2後		2		1						
	論文演習(a)	2前		1		2	1					
	論文演習(b)	2後		1		2	1					
	作品分析特講A(a)	1・2前		2							1	
	作品分析特講A(b)	1・2後		2							1	
	作品分析特講B	1・2後		2			1					
	作品分析特講C(a)	1・2前		2							1	
	作品分析特講C(b)	1・2後		2							1	
	エディション研究特講(a)	1・2前		2		1						
エディション研究特講(b)	1・2後		2		1							
原書講読(独)(a)	1・2前		2		1							
原書講読(独)(b)	1・2後		2		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	器楽特殊研究B②(a)	2前		1		14	3					62
	器楽特殊研究B②(b)	2後		1		14	3					62
	器楽特殊研究C①(a)	1前		1		8	1	1				27
	器楽特殊研究C①(b)	1後		1		8	1	1				27
	器楽特殊研究C②(a)	2前		1		8	1	1				27
	器楽特殊研究C②(b)	2後		1		8	1	1				27
	歌曲伴奏研究①(a)	1前		1							1	
	歌曲伴奏研究①(b)	1後		1							1	
	歌曲伴奏研究②(a)	2前		1							1	
	歌曲伴奏研究②(b)	2後		1							1	
小計(35科目)	-											
関連科目	総合演習A(a)	1・2前		2		1						
	総合演習A(b)	1・2後		2		1						
	総合演習B(a)	1・2前		2		1						
	総合演習B(b)	1・2後		2		2						
	総合演習C(a)	1・2前		2		1						
	総合演習C(b)	1・2後		2		1						
	総合演習D(a)	1・2前		2		1						
	総合演習D(b)	1・2後		2		1						
	論文演習(a)	2前		1		2	1					
	論文演習(b)	2後		1		2	1					
	作品分析特講A(a)	1・2前		2							1	
	作品分析特講A(b)	1・2後		2							1	
	作品分析特講B	1・2後		2			1	0				
	作品分析特講C(a)	1・2前		2				1				0
	作品分析特講C(b)	1・2後		2				1				0
	エディション研究特講(a)	1・2前		2		1						
エディション研究特講(b)	1・2後		2		1							
原書講読(独)(a)	1・2前		2		1							
原書講読(独)(b)	1・2後		2		1							



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連科目	原書講読(仏)(a)	1・2前		2		1						
	原書講読(仏)(b)	1・2後		2		1						
	原書講読(英)(a)	1・2前		2			1					
	原書講読(英)(b)	1・2後		2			1					
	音楽文献研究	1・2前		2			1					
	小計(24科目)	-										
合計(59科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
修士課程に2年以上在籍し、教育課程表に定める専門科目の必修10単位、関連科目の総合演習8科目から毎学期1科目ずつ合計4科目8単位を選択必修、その他の専門科目・関連科目の中から12単位以上、合計30単位以上修得し、修了レポート及び修了演奏の審査に合格すること。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連科目	原書講読(仏)(a)	1・2前		2		1						
	原書講読(仏)(b)	1・2後		2		1						
	原書講読(英)(a)	1・2前		2			1					
	原書講読(英)(b)	1・2後		2			1					
	音楽文献研究	1・2前		2			1					
	小計(24科目)	-										
合計(59科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
修士課程に2年以上在籍し、教育課程表に定める専門科目の必修10単位、関連科目の総合演習8科目から毎学期1科目ずつ合計4科目8単位を選択必修、その他の専門科目・関連科目の中から12単位以上、合計30単位以上修得し、修了レポート及び修了演奏の審査に合格すること。												

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	領域実技①(a)	1前	2			14	9	1			92
	領域実技①(b)	1後	2			14	9	1			92
	領域実技②(a)	2前	2			14	9	1			92
	領域実技②(b)	2後	2			14	9	1			92
	修了研究(a)	2前	1			21	10	1			
	修了研究(b)	2後	1			21	10	1			
	声楽特殊研究A①(a)	1前		1		2	1				3
	声楽特殊研究A①(b)	1後		1		2	1				3
	声楽特殊研究A②(a)	2前		1		2	1				3
	声楽特殊研究A②(b)	2後		1		2	1				3
	声楽特殊研究B①(a)	1前		1		3	1				3
	声楽特殊研究B①(b)	1後		1		3	1				3
	声楽特殊研究B②(a)	2前		1		3	1				3
	声楽特殊研究B②(b)	2後		1		3	1				3
	歌曲演習Ⅰ(a)	1・2前		2		2					
	歌曲演習Ⅰ(b) (隔年のため未開講)	1・2後		2		2					
	歌曲演習Ⅱ (隔年のため未開講)	1・2前		2						1	
	歌曲演習Ⅲ	1・2後		2						1	
	台本研究	1・2後		2							2
	器楽特殊研究A①(a)	1前		1		10	6	1			67
器楽特殊研究A①(b)	1後		1		10	6	1			67	
器楽特殊研究A②(a)	2前		1		10	6	1			67	
器楽特殊研究A②(b)	2後		1		10	6	1			67	
器楽特殊研究B①(a)	1前		1		10	5				58	
器楽特殊研究B①(b)	1後		1		10	5				58	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	領域実技①(a)	1前	2			14	10	1			99
	領域実技①(b)	1後	2			14	10	1			99
	領域実技②(a)	2前	2			14	10	1			99
	領域実技②(b)	2後	2			14	10	1			99
	修了研究(a)	2前	1			21	11	1			
	修了研究(b)	2後	1			21	11	1			
	声楽特殊研究A①(a)	1前		1		2	1				4
	声楽特殊研究A①(b)	1後		1		2	1				4
	声楽特殊研究A②(a)	2前		1		2	1				4
	声楽特殊研究A②(b)	2後		1		2	1				4
	声楽特殊研究B①(a)	1前		1		3	1				4
	声楽特殊研究B①(b)	1後		1		3	1				4
	声楽特殊研究B②(a)	2前		1		3	1				4
	声楽特殊研究B②(b)	2後		1		3	1				4
	歌曲演習Ⅰ(a)	1・2前		2		2					
	歌曲演習Ⅰ(b) (隔年のため未開講)	1・2後		2		2					
	歌曲演習Ⅱ	1・2前		2						1	
	歌曲演習Ⅲ (隔年のため未開講)	1・2後		2						1	
	台本研究	1・2後		2							2
	器楽特殊研究A①(a)	1前		1		10	7	1			73
器楽特殊研究A①(b)	1後		1		10	7	1			73	
器楽特殊研究A②(a)	2前		1		10	7	1			73	
器楽特殊研究A②(b)	2後		1		10	7	1			73	
器楽特殊研究B①(a)	1前		1		10	6				64	
器楽特殊研究B①(b)	1後		1		10	6				64	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	器楽特殊研究B②(a)	2前	1			10	5					58
	器楽特殊研究B②(b)	2後	1			10	5					58
	器楽特殊研究C①(a)	1前	1			6	2	1				25
	器楽特殊研究C①(b)	1後	1			6	2	1				25
	器楽特殊研究C②(a)	2前	1			6	2	1				25
	器楽特殊研究C②(b)	2後	1			6	2	1				25
	歌曲伴奏研究①(a)	1前	1								1	
	歌曲伴奏研究①(b)	1後	1								1	
	歌曲伴奏研究②(a)	2前	1								1	
	歌曲伴奏研究②(b)	2後	1								1	
小計(35科目)	-											
関連科目	総合演習A(a)	1・2前	2			1						
	総合演習A(b)	1・2後	2			1						
	総合演習B(a)	1・2前	2			1						
	総合演習B(b)	1・2後	2			1						
	総合演習C(a)	1・2前	2			1						
	総合演習C(b)	1・2後	2			1						
	総合演習D(a)	1・2前	2			1						
	総合演習D(b)	1・2後	2			1						
	論文演習(a)	2前	1			2	1					
	論文演習(b)	2後	1			2	1					
	作品分析特講A(a)	1・2前	2								1	
	作品分析特講A(b)	1・2後	2								1	
	作品分析特講B	1・2後	2			1	0					
	作品分析特講C(a)	1・2前	2			1						0
	作品分析特講C(b)	1・2後	2			1						0
	エディション研究特講(a)	1・2前	2			1						
エディション研究特講(b)	1・2後	2			1							
原書講読(独)(a)	1・2前	2			1							
原書講読(独)(b)	1・2後	2			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	器楽特殊研究B②(a)	2前	1			10	6					64
	器楽特殊研究B②(b)	2後	1			10	6					64
	器楽特殊研究C①(a)	1前	1			6	2	1				27
	器楽特殊研究C①(b)	1後	1			6	2	1				27
	器楽特殊研究C②(a)	2前	1			6	2	1				27
	器楽特殊研究C②(b)	2後	1			6	2	1				27
	歌曲伴奏研究①(a)	1前	1								1	
	歌曲伴奏研究①(b)	1後	1								1	
	歌曲伴奏研究②(a)	2前	1								1	
	歌曲伴奏研究②(b)	2後	1								1	
小計(35科目)	-											
関連科目	総合演習A(a)	1・2前	2			1						
	総合演習A(b)	1・2後	2			1						
	総合演習B(a)	1・2前	2			1						
	総合演習B(b)	1・2後	2			1						
	総合演習C(a)	1・2前	2			1						
	総合演習C(b)	1・2後	2			1						
	総合演習D(a)	1・2前	2			1						
	総合演習D(b)	1・2後	2			1						
	論文演習(a)	2前	1			2	1					
	論文演習(b)	2後	1			2	1					
	作品分析特講A(a)	1・2前	2									1
	作品分析特講A(b)	1・2後	2									1
	作品分析特講B	1・2後	2			1	0					
	作品分析特講C(a)	1・2前	2			1						0
	作品分析特講C(b)	1・2後	2			1						0
	エディション研究特講(a)	1・2前	2			1						
エディション研究特講(b)	1・2後	2			1							
原書講読(独)(a)	1・2前	2			1							
原書講読(独)(b)	1・2後	2			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連科目	原書講読(仏)(a)	1・2前		2		1						
	原書講読(仏)(b)	1・2後		2		1						
	原書講読(英)(a)	1・2前		2			1					
	原書講読(英)(b)	1・2後		2			1					
	音楽文献研究	1・2前		2			1					
	小計(24科目)	-										
合計(59科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
修士課程に2年以上在籍し、教育課程表に定める専門科目の必修10単位、関連科目の総合演習8科目から毎学期1科目ずつ合計4科目8単位を選択必修、その他の専門科目・関連科目の中から12単位以上、合計30単位以上修得し、修了レポート及び修了演奏の審査に合格すること。												

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連科目	原書講読(仏)(a)	1・2前		2		1						
	原書講読(仏)(b)	1・2後		2		1						
	原書講読(英)(a)	1・2前		2			1					
	原書講読(英)(b)	1・2後		2			1					
	音楽文献研究	1・2前		2			1					
	小計(24科目)	-										
合計(59科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
修士課程に2年以上在籍し、教育課程表に定める専門科目の必修10単位、関連科目の総合演習8科目から毎学期1科目ずつ合計4科目8単位を選択必修、その他の専門科目・関連科目の中から12単位以上、合計30単位以上修得し、修了レポート及び修了演奏の審査に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

・完成年度に定年を迎える教員がいることから、「領域実技」について、専任教員「講師」を採用し、「講師0」から「講師1」に変更。  
 ・准教授が1人就任辞退したため、教授を採用。教育の充実及び教員組織の将来を見据え、「修了研究」について、「教授18」から「教授21」、「准教授11」から「准教授10」、「講師0」から「講師1」に変更。  
 また、「器楽特殊研究A」について、「教授9」から「教授10」、「准教授7」から「准教授6」、「講師0」から「講師1」に変更。  
 「器楽特殊研究B」について、「教授9」から「教授10」、「准教授6」から「准教授5」に変更。  
 「器楽特殊研究C」について、「教授5」から「教授6」、「准教授3」から「准教授2」、「講師0」から「講師1」に変更。  
 ・准教授が1人就任辞退したため、教授の科目を追加。「作品分析特講B」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授1」から「准教授0」に変更。  
 ・教育の充実及び教員組織の将来を見据え、「作品分析特講C」について、専任教員「教授」を採用し、「教授0」から「教授1」に変更。

【平成30年度】

・完成年度に定年を迎える教員がいることから、「領域実技」について、専任教員「准教授」を採用し、「准教授9」から「准教授10」に変更。  
 ・完成年度に定年を迎える教員がいることから、「修了研究」について、専任教員「准教授」を採用し、「准教授10」から「准教授11」に変更。  
 ・教育の充実及び教員組織の将来を見据え「器楽特殊研究A」について、「准教授6」から「准教授7」に変更。  
 ・教育の充実及び教員組織の将来を見据え「器楽特殊研究B」について、「准教授5」から「准教授6」に変更。

【令和元年度】

・完成年度に定年を迎える教員がいることから、「領域実技」について、専任教員「教授1」「准教授1」を採用するとともに、「准教授4」を「教授4」に職位変更し、「教授14」から「教授19」、「准教授10」から「准教授7」に変更。  
 ・完成年度に定年を迎える教員がいることから、「修了研究」について、専任教員「教授1」「准教授1」を採用するとともに、「准教授4」を「教授4」に職位変更し、「教授21」から「教授26」、「准教授11」から「准教授8」に変更。  
 ・教育の充実のため、「声楽特殊研究A」について、専任教員「准教授」を採用し、「准教授1」から「准教授2」に変更。  
 ・教育の充実のため、「声楽特殊研究B」について、専任教員「准教授」を採用し、「准教授1」から「准教授2」に変更。  
 ・教育の充実及び教員組織の将来を見据え「器楽特殊研究A」について、「教授10」から「教授14」、「准教授7」から「准教授4」に変更。  
 ・教育の充実及び教員組織の将来を見据え「器楽特殊研究B」について、「教授10」から「教授14」、「准教授6」から「准教授3」に変更。  
 ・教育の充実及び教員組織の将来を見据え「器楽特殊研究C」について、「教授6」から「教授8」、「准教授2」から「准教授1」に変更。  
 ・教育の充実のため、「総合演習B(b)」について、「教授1」から「教授2」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	53 科目	科目	59 科目	6 科目 [ 0 ]	53 科目 [ 0 ]	科目 [ ]	59 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{59} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 借用地 622㎡ 平成26年4月12日～ 平成31年4月11日			
	校舎敷地	12,219㎡	0㎡	0㎡	12,219㎡				
	運動場用地	2,372㎡	0㎡	0㎡	2,372㎡				
	小 計	14,591㎡	0㎡	0㎡	14,591㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	14,591㎡	0㎡	0㎡	14,591㎡				
(2) 校 舎	専 用	12,945㎡	0㎡	0㎡	12,945㎡	大学全体			
	( 12,945㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	( 12,945㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 音楽学部との 共用が多いため			
	32室	9室	51室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	音楽研究科			20 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	点	点	点				
	音楽研究科	159,080 [127,747] (159,924 [128,353])	701 [343] (701 [343])	108 [108] (436 [433])	49,012 (49,756)	2,110 (2,110)	0 (0)		
計	159,080 [127,747] (159,924 [128,353])	701 [343] (701 [343])	108 [108] (436 [433])	49,012 (49,756)	2,110 (2,110)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	960㎡		89		188,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	0㎡		該 当 な し						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 研究科単位での算出不可 可能なため学部との合 算 図書購入費にはデータ ベースの整備費（運用 コストを含む）
		教員1人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	10,000千円	10,000千円	10,000千円	
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	150,000千円	20,000千円	20,000千円	
	学生1人当り納付金	修士課程	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,800千円	1,450千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		博士後期課程	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,800千円	1,450千円	1,450千円	-千円	-千円	-千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			入学検定料収入、国庫補助金収入、補助活動事業収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		桐朋学園大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
音楽研究科音楽専攻	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	東京都調布市調布ヶ丘一丁目10番地1 東京都調布市若葉町二丁目19番地47 同上	
修士課程	2	30	0	60	修士 (音楽)	1.19	-	平成29		
博士後期課程	3	3	0	9	博士 (音楽)	1.51	-	平成29		
0.88										
大学の名称		桐朋学園大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
音楽学部 音楽学科	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
	4	180	0	720	学士 (音楽)	0.95	-	昭和36	東京都調布市若葉町一丁目41番地1 東京都調布市調布ヶ丘一丁目10番地1	
大学の名称		桐朋学園大学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
音楽研究科 演奏研究専攻	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
	2	10	0	20	修士 (音楽)	0.95	-	平成11	富山県富山市呉羽町1884番地17	
大学の名称		桐朋学園芸術短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
芸術科	年	人	年次 人	人		倍				
音楽専攻	2	50	-	100	短期大学士 (音楽)	0.76	-	昭和39	東京都調布市若葉町一丁目41番地1	
演劇専攻	2	70	-	140	短期大学士 (音楽)	1.19	-	昭和39	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。











専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専	准教授	市川 雅典 (46) <平成29年4月>	市川 雅典 (47) <平成29年4月>	市川 雅典 (48) <平成29年4月>	市川 雅典 (49) <平成29年4月>
		領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b)	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b)	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b)	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b)
専	准教授	腰越(市川) 満美 (51) <平成29年4月>	腰越(市川) 満美 (52) <平成29年4月>	腰越(市川) 満美 (53) <平成29年4月>	腰越(市川) 満美 (54) <平成29年4月>
		領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 声楽特殊研究A①(a) 声楽特殊研究A①(b) 声楽特殊研究A②(a) 声楽特殊研究A②(b) 声楽特殊研究B①(a) 声楽特殊研究B①(b) 声楽特殊研究B②(a) 声楽特殊研究B②(b)	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 声楽特殊研究A①(a) 声楽特殊研究A①(b) 声楽特殊研究A②(a) 声楽特殊研究A②(b) 声楽特殊研究B①(a) 声楽特殊研究B①(b) 声楽特殊研究B②(a) 声楽特殊研究B②(b)	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 声楽特殊研究A①(a) 声楽特殊研究A①(b) 声楽特殊研究A②(a) 声楽特殊研究A②(b) 声楽特殊研究B①(a) 声楽特殊研究B①(b) 声楽特殊研究B②(a) 声楽特殊研究B②(b)	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 修了研究(a) 修了研究(b) 声楽特殊研究A①(a) 声楽特殊研究A①(b) 声楽特殊研究A②(a) 声楽特殊研究A②(b) 声楽特殊研究B①(a) 声楽特殊研究B①(b) 声楽特殊研究B②(a) 声楽特殊研究B②(b)
専	准教授	大西 義明 (35) <平成29年4月>			
		修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b) 器楽特殊研究B①(a) 器楽特殊研究B①(b) 器楽特殊研究B②(a) 器楽特殊研究B②(b) 器楽特殊研究C①(a) 器楽特殊研究C①(b) 器楽特殊研究C②(a) 器楽特殊研究C②(b) 作品分析特講B			
専	准教授	安田 和信 (48) <平成29年4月>	安田 和信 (49) <平成29年4月>	安田 和信 (50) <平成29年4月>	安田 和信 (51) <平成29年4月>
		修了研究(a) 修了研究(b) 論文演習(a) 論文演習(b) 原書講読(英)(a) 原書講読(英)(b) 音楽文献研究	修了研究(a) 修了研究(b) 論文演習(a) 論文演習(b) 原書講読(英)(a) 原書講読(英)(b) 音楽文献研究	修了研究(a) 修了研究(b) 論文演習(a) 論文演習(b) 原書講読(英)(a) 原書講読(英)(b) 音楽文献研究	修了研究(a) 修了研究(b) 論文演習(a) 論文演習(b) 原書講読(英)(a) 原書講読(英)(b) 音楽文献研究
			土田 英介 (54) <平成29年6月>	土田 英介 (55) <平成29年6月>	土田 英介 (56) <平成29年6月>
			修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b) 器楽特殊研究B①(a) 器楽特殊研究B①(b) 器楽特殊研究B②(a) 器楽特殊研究B②(b) 器楽特殊研究C①(a) 器楽特殊研究C①(b) 器楽特殊研究C②(a) 器楽特殊研究C②(b) 作品分析特講C(a) 作品分析特講C(b)	修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b) 器楽特殊研究B①(a) 器楽特殊研究B①(b) 器楽特殊研究B②(a) 器楽特殊研究B②(b) 器楽特殊研究C①(a) 器楽特殊研究C①(b) 器楽特殊研究C②(a) 器楽特殊研究C②(b) 作品分析特講C(a) 作品分析特講C(b)	修了研究(a) 修了研究(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b) 器楽特殊研究B①(a) 器楽特殊研究B①(b) 器楽特殊研究B②(a) 器楽特殊研究B②(b) 器楽特殊研究C①(a) 器楽特殊研究C①(b) 器楽特殊研究C②(a) 器楽特殊研究C②(b) 作品分析特講C(a) 作品分析特講C(b)
			塚田 健一 (67) <平成29年6月>	塚田 健一 (68) <平成29年6月>	塚田 健一 (69) <平成29年6月>
			修了研究(a) 修了研究(b)	修了研究(a) 修了研究(b)	修了研究(a) 修了研究(b)
			鈴木 輝昭 (59) <平成29年6月>	鈴木 輝昭 (60) <平成29年6月>	鈴木 輝昭 (61) <平成29年6月>
			修了研究(a) 修了研究(b)	修了研究(a) 修了研究(b)	修了研究(a) 修了研究(b)
			鈴木 輝昭 (59) <平成29年10月>	鈴木 輝昭 (60) <平成29年10月>	鈴木 輝昭 (61) <平成29年10月>
			作品分析特講B	作品分析特講B	作品分析特講B
					鈴木 輝昭 (61) <平成30年10月>
					総合演習B(b)



































専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	職名	氏名 (年齢)	職名	氏名 (年齢)	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>		<就任(予定)年月>		<就任(予定)年月>		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
						駒井 ゆり子 (43) <平成30年4月>	兼任 講師	駒井 ゆり子 (44) <平成30年4月>
						領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b)		領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b)
								池田 菊穂 (71) <平成31年4月>
							兼任 講師	領域実技①(a) 領域実技①(b) 領域実技②(a) 領域実技②(b) 器楽特殊研究A①(a) 器楽特殊研究A①(b) 器楽特殊研究A②(a) 器楽特殊研究A②(b) 器楽特殊研究B①(a) 器楽特殊研究B①(b) 器楽特殊研究B②(a) 器楽特殊研究B②(b)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

**【平成29年度】**

- ・大西准教授就任辞退により、土田教授を採用。平成29年6月AC教員審査済み。
- ・平成29年6月川村講師就任。平成29年6月教員審査済み。
- ・平成29年6月塚田教授、修士課程も担当。平成29年6月教員審査済み。
- ・平成29年6月鈴木教授、修士課程も担当。平成29年6月教員審査済み。
- ・大西准教授就任辞退により、鈴木教授に変更。平成29年8月教員審査済み。

**【平成30年度】**

- ・平成30年4月神谷（佐藤）准教授就任。平成30年1月教員審査済み。

**【令和元年度】**

- ・平成30年7月新井博江教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成30年7月中井恒仁教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成30年7月久保田（西巻）巧教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成30年7月豊田弓乃教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成31年4月清水和音教授就任。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月宮本益光准教授就任。平成31年1月教員審査済み。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
総合判定 名	総合判定 名	総合判定 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
19	11	0	0	30	27	8	1	0	36
(19)	(10)	(0)	(0)	(29)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
28	1	1			33	2	1		
(27)	(1)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
27	8	1	0	36	27	8	1	0	36
[ 8 ]	[ Δ3 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 6 ]	[ 8 ]	[ Δ3 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 6 ]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
33	2	1			33	2	1		
[ 5 ]	[ 1 ]	[ 0 ]			[ 5 ]	[ 1 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要受済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
67	6	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{36}{30} = \boxed{120} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{6}{36} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	大西 義明	H29.3	必修	修了研究(a)	①	H29.3に大学退職のため就任辞退(29)			
				必修	修了研究(b)	①				
				選択	器楽特殊研究A①(a)	①				
				選択	器楽特殊研究A①(b)	①				
				選択	器楽特殊研究A②(a)	①				
				選択	器楽特殊研究A②(b)	①				
				選択	器楽特殊研究B①(a)	①				
				選択	器楽特殊研究B①(b)	①				
				選択	器楽特殊研究B②(a)	①				
				選択	器楽特殊研究B②(b)	①				
				選択	器楽特殊研究C①(a)	①				
				選択	器楽特殊研究C①(b)	①				
				選択	器楽特殊研究C②(a)	①				
				選択	器楽特殊研究C②(b)	①				
合計(D)				後任補充状況の集計(E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	13	科目	選択	13	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	15	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計(F)				後任補充状況の集計(G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D)+(F)				後任補充状況の集計(E)+(G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	13	科目	選択	13	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	15	科目	計	0	科目



(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計(D)+(F)}}{(2)-(2)\text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{30} = \boxed{3.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「大学の所見」 大学を退職されたので、仕方がないと考える。急ぎ後任人事を行い、平成29年3月にA C教員申請を行い、6月に審査済みである。</p> <p>「学生への周知方法」 入学式直後のオリエンテーションで、全入学生に周知した。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (28年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。  留意事項	1. 設置計画を確実に履行するよう努めるとともに、教育研究活動の充実及び向上に努めることとしている。 (29)	履行済  該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年)			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <音楽研究科 修士課程>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況  
「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）  
毎月開催（7～8月を除く）

c 委員会の審議事項等

- ・ FD活動の企画立案
- ・ FD活動の実施計画の立案および実施
- ・ FD活動の評価・改善
- ・ 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバック
- ・ FD活動に関する情報収集と提供 等

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 授業方法について研究会
- ・ 招聘講師（主に欧州音楽大学）による指導法研究会
- ・ 教員相互の研鑽の場として、新任教員によるファカルティ・コンサート
- ・ 各部会等において研修を企画実施
- ・ 「教職員のコミュニケーション」について研修

b 実施方法

- ・ ファカルティ・ディベロップメント委員会において、企画を行い、実施リーダーを決め、リーダーを中心に実施
- ・ 各部会等毎に研修を企画し、実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 招聘講師（主に欧州音楽大学）による指導法研究会の実施が一番多く、年30回程度行っている。指導法は、楽器毎に異なることが多く、関係分野の教員の参加が中心となっている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 得られた指導法を関係分野教員で協議の上、授業に取り入れて行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 有 前期：7月、後期：1月

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 授業ごとに集計結果をまとめたものを、教員にフィードバックし、授業改善を促している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

演奏技術のみならず、作品解釈などがますます高度となり、インターネットを通じた情報の摂取等によって、演奏家や音楽教育者は、既成の価値観に安住することが許されず、時代や社会の思潮や課題に即応することが強く求められている。現在の専門教育の基礎・基本の修得に重点を置いた学部教育のみでは、このようなニーズに応えることは困難であり、より幅広く、深い学識の涵養を図る高度な教育・研究機能が求められる趨勢にある。そのため、音楽における高度な専門性を備え、確かな実践能力や豊かな知識を持って活躍できる演奏家の育成を目的として、平成29年4月に大学院音楽研究科修士課程を開設したところである。

修士課程は2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修させることとした。学位審査は、修了演奏および研究レポートの審査によって行い、合格者に修士（音楽）の学位を授与することとした。

教育課程の編成に際して、各コースは、それぞれの高度な専門性を追求し、独自性を活かしながら、他コースの学生の研究成果をも学ぶことによって、音楽に対する総合的な見識を深化させることができるように、教育課程をより組織的かつ体系的に構築したところである。この教育課程は、学生自身の関心に基づく研究課題を定め、高度な専門性を磨き上げる科目を「専門科目」とし、一方で各自の研究課題に関連した分野について幅広く見識を広めるとともに、音楽全般に対する応用力を取得するための科目を「関連科目」として配置し、二つの方向から見識を高めていくことを目指したものである。必修科目には、研究指導を行う「修了研究」を置き、修了演奏の成果を充実させるために、演奏曲目についての詳細な解説を執筆させ、音楽をめぐるリテラシーを高めることを目的とした。また、個人レッスンにより個々の学生の資質や個性を見極めた上で、技術的な向上と演奏解釈の錬磨を目指す「領域実技」を置いた。選択必修科目として、「総合演習」を置き、音楽理論、音楽史、美学等の諸問題を、教員や他の学生等とともに討議し、また自らもその諸問題に関する研究発表をすることを通じて、実践における技術と解釈を支えるバックボーン形成を目指したところである。「総合演習」はコース別でなく、異なるコースの学生が集うクラス編成とし、他のコースの成果をも取り込みながら、音楽に関する総合的な見識を高めることにも配慮したところである。2年次の「修了演奏」も、演奏曲目について総合的に掘り下げ、レポートを作成する「修了研究」を課すことで、研究に裏打ちされた実践という現代の演奏家に求められる課題への意識を強めるための指導をしていくこととした。さらに、「領域実技」と「総合演習」の土台の上で、各コースの専門性を高めるための演習を多数配置し授業を展開した。

このように魅力的な教育課程を組んだため、平成29年度においては、過去に本学学部教育を修了した既卒者を含め、入学定員の2.5倍の75人の志願者があったところである。

入学をした58人は、オリエンテーションや日々の教育の中で、教育課程の意図するところを良く理解し、学術的研究に励み、本学修士課程修了に必須としていない修士論文を6割以上の学生が行い、また、その内容も極めて素晴らしい内容ばかりであった。

また、学位審査の対象となる修了演奏もそれぞれの研究に裏打ちされた実に見込みのある広がりのある内容であった。

教員組織や授業科目は、設置計画どおり進められ、学位を授与した者51人、留学をしている者1人、幅広く研鑽を積むため学んでいる者3人、就職のため退学した者3人であり、設置趣旨に則した教育が行われたものと評価できる。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・平成31年3月6日 公表

###### b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

##### ③ 認証評価を受ける計画

・平成29年度に評価機関（公益財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受けたところ

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (  有 ・  無 )

b 公表有の場合の公表（予定）時期 ( 令和元年6月28日 )

b 公表無の場合の特段の理由 ( )

（注）・今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

# 桐朋学園大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

## (目的)

第1条 この規程は、桐朋学園大学（以下「本学」という。）における授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施（以下「FD活動」という。）に関して、恒常的に検討を行い、その質的充実を図るために設置されるファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）の構成及び運営その他について定めることを目的とする。

## (構成)

第2条 委員会の構成員は、次のとおりとする。

- (1) 学長
  - (2) 学部長
  - (3) 研究科長
  - (4) 教務部長
  - (5) 仙川キャンパス各部会主任・各運営委員会委員長
- 2 委員会に委員長を置き、学長がこれを務める。
- 3 委員長は、必要に応じて構成員以外の者にオブザーバーとして出席を要請し、その意見を聴くことができる。

## (会議)

第3条 委員会は、必要に応じて、委員長が招集する。

- 2 委員会の議長は、学部長が務める。
- 3 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立する。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) FD活動の企画立案
  - (2) FD活動の実施計画の立案及び実施
  - (3) FD活動の評価・改善
  - (4) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバック
  - (5) FD活動に関する情報収集と提供
  - (6) その他学長が審議を要請する事項
- 2 委員会で承認された審議事項は、学長に報告される。

## (事務)

第5条 委員会の事務は、教学事務部教務課が行う。

## 附 則

- 1 この規程は、2009年4月1日から施行する。
- 2 この規程の改廃は、学長が行う。
- 3 この改正規程は、2012年4月1日から施行する。
- 4 この改正規程は、2015年4月1日から施行する。
- 5 この改正規程は、2017年4月1日から施行する。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人桐朋学園

## (2) 大学名

桐朋学園大学

## (3) 大学の位置

〒182-0021  
東京都調布市調布ヶ丘一丁目10番地1  
〒182-0003  
東京都調布市若葉町二丁目19番地47  
(〒182-8510)  
( 東京都調布市若葉町一丁目41番地1 )

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コヤナギ サトシ) 小柳 敏志 (平成22年4月)	(カワハラ イサト) 河原 勇人 (平成30年4月)	任期満了による交替 平成30年4月1日(30)
学長	(ウメヅ トキヒコ) 梅津 時比古 (平成25年4月)		
学部長	(ムラカミ ゲンイチロウ) 村上 弦一郎 (平成28年4月)	(コモリヤ イズミ) 小森谷 泉 (平成30年4月)	任期満了による交替 平成30年4月1日(30)
研究科長	(オオシマ イクオ) 大島 幾雄 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
音楽研究科 音楽専攻（博士後期課程） 博士（音楽）	音楽関係	年 3	人 3	年次人	人 9	基礎となる学部等  音楽学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	3人	人	3人	人	3人	人			0.88倍	-	
志願者数	8		2		6						
受験者数	7		2		5						
合格者数	2		1		5						
B 入学者数	2		1		5						
入学定員超過率 B/A	0.66		0.33		1.66						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。



(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	2 [     ] (     )	- [     ] (     )	1 [     ] (     )	- [     ] (     )	5 [     ] (     )	- [     ] (     )			
2年次	/		2 [     ] (     )	- [     ] (     )	1 [     ] (     )	- [     ] (     )			
3年次			/				2 [     ] (     )	- [     ] (     )	
計	2 [     ] (     )				3 [     ] (     )		8 [     ] (     )		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [     ]内には、留学生の状況について**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ (     )内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	2人	0人	平成29年度	0人	0人	
平成30年度	3人	0人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	8人	0人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<音楽研究科 音楽専攻（博士後期課程）>

### (1) ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(博士研究指導)	1～3通	-			20	10					
	領域特別研究 I (a)	1前	1			14	9					
	領域特別研究 I (b)	1後	1			14	9					
	領域特別研究 II (a)	2前	1			14	9					
	領域特別研究 II (b)	2後	1			14	9					
	博士共同研究 I (a)	1前	1			20	11					
	博士共同研究 I (b)	1後	1			20	11					
	博士共同研究 II (a)	2前	1			20	11					
	博士共同研究 II (b)	2後	1			20	11					
小計(8科目)		-										
総合科目	博士総合演習A(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習A(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習B(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習B(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習C(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習C(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習D(a)	1・2前	1			1					1	
	博士総合演習D(b)	1・2後	1			1					1	
	博士総合演習[音楽文化研究](a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習[音楽文化研究](b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](a)	1・2前	1			1						1
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)	1・2後	1			1						1
	博士総合演習[楽書原典研究](a)	1・2前	1			3						
	博士総合演習[楽書原典研究](b)	1・2後	1			3						
	博士総合演習[音楽資料研究]	1前	1			1						
小計(15科目)		-										

#### 【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(博士研究指導)	1～3通	-					26	6			
	領域特別研究 I (a)	1前	1					19	7	1		2
	領域特別研究 I (b)	1後	2					19	7	1		2
	領域特別研究 II (a)	2前	2					19	7	1		2
	領域特別研究 II (b)	2後	2					19	7	1		2
	博士共同研究 I (a)	1前	1					26	7			
	博士共同研究 I (b)	1後	1					26	7			
	博士共同研究 II (a)	2前	1					26	7			
	博士共同研究 II (b)	2後	1					26	7			
小計(8科目)		-										
総合科目	博士総合演習A(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習A(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習B(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習B(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習C(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習C(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習D(a)	1・2前	1			1					1	
	博士総合演習D(b)	1・2後	1			1					1	
	博士総合演習[音楽文化研究](a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習[音楽文化研究](b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](a)	1・2前	1			1						1
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)	1・2後	1			1						1
	博士総合演習[楽書原典研究](a)	1・2前	1			3						
	博士総合演習[楽書原典研究](b)	1・2後	1			3						
	博士総合演習[音楽資料研究]	1前	1			1			1			
小計(15科目)		-										



【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(博士研究指導)	1~3通	-			21	9					
	領域特別研究 I (a)	1前	1			14	9	1				
	領域特別研究 I (b)	1後	1			14	9	1				
	領域特別研究 II (a)	2前	1			14	9	1				
	領域特別研究 II (b)	2後	1			14	9	1				
	博士共同研究 I (a)	1前	1			21	10					
	博士共同研究 I (b)	1後	1			21	10					
	博士共同研究 II (a)	2前	1			21	10					
	博士共同研究 II (b)	2後	1			21	10					
小計(8科目)	-											
総合科目	博士総合演習A(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習A(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習B(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習B(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習C(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習C(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習D(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習D(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習[音楽文化研究](a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習[音楽文化研究](b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](a)	1・2前	1			1						1
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)	1・2後	1			1						1
	博士総合演習[楽書原典研究](a)	1・2前	1			3						
	博士総合演習[楽書原典研究](b)	1・2後	1			3						
	博士総合演習[音楽資料研究]	1前	1			1						
小計(15科目)	-											
合計(23科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
博士後期課程に3年以上在籍し、教育課程表に定める専門科目を8単位、総合科目を2単位以上、合わせて10単位以上修得し、博士論文及び研究演奏の審査及び最終試験に合格すること。												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(博士研究指導)	1~3通	-			21	9					
	領域特別研究 I (a)	1前	1			14	10	1				
	領域特別研究 I (b)	1後	2			14	10	1				
	領域特別研究 II (a)	2前	2			14	10	1				
	領域特別研究 II (b)	2後	2			14	10	1				
	博士共同研究 I (a)	1前	1			21	10					
	博士共同研究 I (b)	1後	1			21	10					
	博士共同研究 II (a)	2前	1			21	10					
	博士共同研究 II (b)	2後	1			21	10					
小計(8科目)	-											
総合科目	博士総合演習A(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習A(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習B(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習B(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習C(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習C(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習D(a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習D(b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習[音楽文化研究](a)	1・2前	1			1						
	博士総合演習[音楽文化研究](b)	1・2後	1			1						
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](a)	1・2前	1			1						1
	博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)	1・2後	1			1						1
	博士総合演習[楽書原典研究](a)	1・2前	1			3						
	博士総合演習[楽書原典研究](b)	1・2後	1			3						
	博士総合演習[音楽資料研究]	1前	1			1						
小計(15科目)	-											
合計(23科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
博士後期課程に3年以上在籍し、教育課程表に定める専門科目を8単位、総合科目を2単位以上、合わせて10単位以上修得し、博士論文及び研究演奏の審査及び最終試験に合格すること。												

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成29年度】**

- ・ 准教授が1人就任辞退したため、教授を採用。「博士研究指導」について、「教授20」から「教授21」、「准教授11」から「准教授10」に変更。
- ・ 完成年度に定年を迎える教員がいることから、「領域特別研究」について、専任教員「講師」として採用。「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 准教授が1人就任辞退したため、教授を採用。「博士共同研究」について、「教授20」から「教授21」、「准教授11」から「准教授10」に変更。

**【平成30年度】**

- ・ 完成年度に定年を迎える教員がいることから、「領域特別研究」について、専任教員「准教授」として採用。「准教授9」から「准教授10」に変更。

**【令和元年度】**

- ・ 完成年度に定年を迎える教員がいることから、「博士研究指導」について、専任教員「教授1」「准教授1」を採用するとともに、「准教授4」を「教授4」に職位変更し、「教授21」から「教授26」、「准教授9」から「准教授6」に変更。
- ・ 完成年度に定年を迎える教員がいることから、「領域特別研究」について、専任教員「教授1」「准教授1」を採用するとともに、「准教授4」を「教授4」に職位変更し、「教授14」から「教授19」、「准教授10」から「准教授7」に変更。
- ・ 完成年度に定年を迎える教員がいることから、「博士共同研究」について、専任教員「教授1」「准教授1」を採用するとともに、「准教授4」を「教授4」に職位変更し、「教授21」から「教授26」、「准教授10」から「准教授7」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	15 科目	科目	23 科目	8 科目 [ 0 ]	15 科目 [ 0 ]	科目 [ ]	23 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{23} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 借用地 622㎡ 平成26年4月12日～ 平成31年4月11日			
	校舎敷地	12,219㎡	0㎡	0㎡	12,219㎡				
	運動場用地	2,372㎡	0㎡	0㎡	2,372㎡				
	小 計	14,591㎡	0㎡	0㎡	14,591㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	14,591㎡	0㎡	0㎡	14,591㎡				
(2) 校 舎	専 用	12,945㎡	0㎡	0㎡	12,945㎡	大学全体			
	( 12,945㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	( 12,945㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 音楽学部との 共用が多いため			
	32室	9室	51室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	音楽研究科			20 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	種	点	点	点			
	音楽研究科	159,080 [127,747] (159,924 [128,353])	701 [343] (701 [343])	108 [108] (436 [433])	49,012 (49,756)	2,110 (2,110)	0 (0)		
計	159,080 [127,747] (159,924 [128,353])	701 [343] (701 [343])	108 [108] (436 [433])	49,012 (49,756)	2,110 (2,110)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	960㎡		89		188,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	0㎡		該 当 な し						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 研究科単位での算出不可 可能なため学部との合 算 図書購入費にはデータ ベースの整備費（運用 コストを含む）
		教員1人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	10,000千円	10,000千円	10,000千円	
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	150,000千円	20,000千円	20,000千円	
	学生1人当り納付金	修士課程	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,800千円	1,450千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		博士後期課程	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,800千円	1,450千円	1,450千円	-千円	-千円	-千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		入学検定料収入、国庫補助金収入、補助活動事業収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



4. 既設大学等の状況

大学の名称		桐朋学園大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
音楽研究科音楽専攻	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	東京都調布市調布ヶ丘一丁目10番地1 東京都調布市若葉町二丁目19番地47 同上	
修士課程	2	30	0	60	修士 (音楽)	1.19	-	平成29		
博士後期課程	3	3	0	9	博士 (音楽)	1.51	-	平成29		
0.88										
大学の名称		桐朋学園大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
音楽学部 音楽学科	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
	4	180	0	720	学士 (音楽)	0.95	-	昭和36	東京都調布市若葉町一丁目41番地1 東京都調布市調布ヶ丘一丁目10番地1	
大学の名称		桐朋学園大学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
音楽研究科 演奏研究専攻	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
	2	10	0	20	修士 (音楽)	0.95	-	平成11	富山県富山市呉羽町1884番地17	
大学の名称		桐朋学園芸術短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
芸術科	年	人	年次 人	人		倍				
音楽専攻	2	50	-	100	短期大学士 (音楽)	0.76	-	昭和39	東京都調布市若葉町一丁目41番地1	
演劇専攻	2	70	-	140	短期大学士 (音楽)	1.19	-	昭和39	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。









専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 しのぶ (46) <平成29年4月>	兼任	講師	鈴木 しのぶ (47) <平成29年4月>	兼任	講師	鈴木 しのぶ (48) <平成29年4月>	兼任	講師	鈴木 しのぶ (49) <平成29年4月>
		博士総合演習[ソルフェージュ研究](a) 博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)			博士総合演習[ソルフェージュ研究](a) 博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)			博士総合演習[ソルフェージュ研究](a) 博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)			博士総合演習[ソルフェージュ研究](a) 博士総合演習[ソルフェージュ研究](b)
											野島 裕 (73) <平成31年4月>
											領域特別研究 I (a) 領域特別研究 I (b) 領域特別研究 II (a) 領域特別研究 II (b)
											三上(藤原) 桂子 (71) <平成31年4月>
											領域特別研究 I (a) 領域特別研究 I (b) 領域特別研究 II (a) 領域特別研究 II (b)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・大西准教授就任辞退により、土田教授を採用。平成29年6月AC教員審査済み。
- ・平成29年6月川村講師就任。平成29年6月教員審査済み。

【平成30年度】

- ・平成30年4月神谷（佐藤）准教授就任。平成30年1月教員審査済み。

【令和元年度】

- ・平成30年7月新井博江教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成30年7月中井恒仁教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成30年7月久保田（西巻）巧教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成30年7月豊田弓乃教授就任（准教授から職位の変更）。平成30年4月教員審査済み。
- ・平成31年4月清水和音教授就任。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月宮本益光准教授就任。平成31年1月教員審査済み。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）**を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
総合判定 名	総合判定 名	総合判定 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
20	11	0	0	31	26	8	1	0	35
(20)	(10)	(0)	(0)	(30)					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
27	3	1			29	3	3		
(26)	(3)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
26	8	1	0	35	26	8	1	0	35
[ 6 ]	[ Δ3 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 4 ]	[ 6 ]	[ Δ3 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 4 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
29	3	3			29	3	3		
[ 2 ]	[ 0 ]	[ 2 ]			[ 2 ]	[ 0 ]	[ 2 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審査済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
67	6	7
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{35}{31} = \boxed{112.9} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{6}{35} = \boxed{17.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	准教授	大西 義明	H29.3	必修	(博士研究指導)	①	H29.3に大学退職のため就任辞退（29）						
				必修	博士共同研究Ⅰ(a)	①							
				必修	博士共同研究Ⅰ(b)	①							
				必修	博士共同研究Ⅱ(a)	①							
				必修	博士共同研究Ⅱ(b)	①							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{31} = 3.22\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「大学の所見」                  大学を退職されたので、仕方がないと考える。急ぎ後任人事を行い、平成29年3月にAC教員申請を行い、6月に審査済みである。</p> <p>「学生への周知方法」                  入学式直後のオリエンテーションで、全入学生に周知した。</p>
---

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (28年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。 2. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。 留意事項	1. 設置計画を確実に履行するよう努めるとともに、教育研究活動の充実及び向上に努めることとしている。(29) 2. 教員組織編制の将来構想について検討を開始した。(29) 教員組織の将来を見据え、2名の教員を採用した。(30) 教員組織の将来を見据え、2名の教員を採用した。(元)	履行済  該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年)			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <音楽研究科 博士後期課程>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>毎月開催（7～8月を除く）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FD活動の企画立案</li> <li>・ FD活動の実施計画の立案および実施</li> <li>・ FD活動の評価・改善</li> <li>・ 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバック</li> <li>・ FD活動に関する情報収集と提供 等</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法について研究会</li> <li>・ 招聘講師（主に欧州音楽大学）による指導法研究会</li> <li>・ 教員相互の研鑽の場として、新任教員によるファカルティ・コンサート</li> <li>・ 各部会等において研修を企画実施</li> <li>・ 「教職員のコミュニケーション」について研修</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファカルティ・ディベロップメント委員会において、企画を行い、実施リーダーを決め、リーダーを中心に実施</li> <li>・ 各部会等毎に研修を企画し、実施</li> </ul> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 招聘講師（主に欧州音楽大学）による指導法研究会の実施が一番多く、年30回程度行っている。指導法は、楽器毎に異なることが多く、関係分野の教員の参加が中心となっている。</li> </ul> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 得られた指導法を関係分野教員で協議の上、授業に取り入れて行っている。</li> </ul> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有 前期：7月、後期：1月</li> </ul> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業ごとに集計結果をまとめたものを、教員にフィードバックし、授業改善を促している。</li> </ul>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教員組織や授業科目は、設置計画通り進められており、設置趣旨に則した教育が行われているところである。なお、設置目的が達成されたかについては、第一期生が修了した段階で判断する必要がある。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成31年3月6日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成29年度に評価機関（公益財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受けたところ

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (  有 ・  無 )

b 公表有の場合の公表（予定）時期 ( 令和元年6月28日 )

b 公表無の場合の特段の理由 ( )

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

# 桐朋学園大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

## (目的)

第1条 この規程は、桐朋学園大学（以下「本学」という。）における授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施（以下「FD活動」という。）に関して、恒常的に検討を行い、その質的充実を図るために設置されるファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）の構成及び運営その他について定めることを目的とする。

## (構成)

第2条 委員会の構成員は、次のとおりとする。

- (1) 学長
  - (2) 学部長
  - (3) 研究科長
  - (4) 教務部長
  - (5) 仙川キャンパス各部会主任・各運営委員会委員長
- 2 委員会に委員長を置き、学長がこれを務める。
- 3 委員長は、必要に応じて構成員以外の者にオブザーバーとして出席を要請し、その意見を聴くことができる。

## (会議)

第3条 委員会は、必要に応じて、委員長が招集する。

- 2 委員会の議長は、学部長が務める。
- 3 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立する。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) FD活動の企画立案
  - (2) FD活動の実施計画の立案及び実施
  - (3) FD活動の評価・改善
  - (4) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバック
  - (5) FD活動に関する情報収集と提供
  - (6) その他学長が審議を要請する事項
- 2 委員会で承認された審議事項は、学長に報告される。

## (事務)

第5条 委員会の事務は、教学事務部教務課が行う。

## 附 則

- 1 この規程は、2009年4月1日から施行する。
- 2 この規程の改廃は、学長が行う。
- 3 この改正規程は、2012年4月1日から施行する。
- 4 この改正規程は、2015年4月1日から施行する。
- 5 この改正規程は、2017年4月1日から施行する。